

学校経営推進費評価報告書（2年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立阿武野高等学校 全日制の課程
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 難関・中堅私立大学への合格生徒数の増加 ・ 外部学力調査（ベネッセ・進路マップ実力診断テスト）の生徒学力評価指標の向上・興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度の向上 ・ 家庭学習時間の増加 ・ ICTを活用した授業の増加
計画名	～わかる授業 学ぶ喜び～ 阿武野「学力充実」プロジェクト

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 確かな学力の育成 (1) 生徒の参加・活動量の多い「わかる授業」をめざした授業力の向上に取り組む、自ら学ぶ生徒を育てる。 ア アクティブラーニングを取り入れ、生徒の授業参加と活動量を積極的に増加させ、学びを深める。</p> <p>※ 授業アンケートにおける興味関心、知識技能に係る生徒の満足度(平成28年度79%)を上昇させ、平成31年度には85%以上にする。</p>
事業目標	<p>普通教室16教室への短焦点プロジェクターの設置、タブレット型端末機の活用により、教材の視覚化、効率化を図るとともに、生徒が自ら参加・活動する「対話型」「発表型」「多方向型」のアクティブラーニングをさらに進展させる。受け身の授業から生徒が主体的、協同的に学ぶ「わかる授業」へと授業の改善を進め、生徒自らが学ぶことへの喜びを実感し、主体的に学習に取り組む力を育成する。</p> <p>これらにより、3年後の難関・中堅私立大学合格者数30人以上、興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度88%以上、ICTを活用した授業4000時間以上及び「実力診断テスト」での成績上昇者(Cゾーン以上)の毎年10%向上、家庭学習時間の毎年10分増加を実現する。</p>
整備した 設備・物品	短焦点プロジェクター16台、タブレット型端末機32台、無線LAN環境
取組みの 主担・実施者	<p>主担者： 「あぶのプロジェクト・学力充実推進チーム」（教頭・首席・指導教諭・教科主任・情報科教諭）</p> <p>実施者： 全教員の8割程度を予定</p>
本年度の 取組内容	<p>昨年度に引き続き、「あぶプロ・学力充実推進チーム」メンバーを中心として、先進校視察や授業力向上のための研修に参加し伝達研修を行うと共に、国・英・数・理・社・芸・体の学プロメンバーによる公開授業、研究協議を11月に実施。</p> <p>同時に、機器活用の校内研修、「授業改善」「ICT活用」をテーマに、全体研修を実施。また、今年度は更に大阪教育大学の仲矢史雄先生を招き、「ルーブリックを用いた評価」に関する全体研修を10月に実施した。</p>

<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 難関・中堅私立大学合格者数：10名以上 ・ 平均家庭学習時間：昨年度比 10 分の増加・外部学力調査(ベネッセ・進路マップ実力診断テスト)の成績上昇者(Cゾーン以上)の昨年度比 10%向上。 ・ 興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度：81%→84%・ICTを活用した授業：3000時間→3500時間
<p>自己評価</p>	<p>「あぶのプロジェクト・学力充実推進チーム」を中心とした取組みにより、学校組織として、授業改善と共に、新学習指導要領、高大接続の学び、授業評価について見識を深めることができた。ただ、大半の項目が評価指標に達していない。その中で、ICTの活用授業時間数だけは驚異的に伸びている。</p> <p>つまり、ICT活用の機運は学校全体で高まり、多くの教員が当たり前のようにICTを授業で活用するようになったが、その成果がまだ十分に表れていないと言える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 難関・中堅私立大学合格者数…………… 7名(△) ・ 平均家庭学習時間…………… 昨年度比3分の増加(△) ・ 外部学力調査(ベネッセ・進路マップ実力診断テスト)の成績上昇者…………… 昨年度比14%の下降(2年生は13%下降、1年生は1%下降)(△) ・ 興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度…………… 79%(△) ・ ICTを活用した授業…………… 4586時間(◎)
<p>次年度に向けて</p>	<p>自己評価を踏まえて、ICTの活用は目的ではなく手段であることを全体で再確認し、その上で、授業内容の改善、知識技能の定着を図るにはどうすべきか等、原点に帰って研究を進める。その際に、新学習指導要領を踏まえての授業作りに取り組む。具体的には「あぶプロ・学力充実推進チーム」を中心として、機器活用校内研修・教材開発の共有は4月から取り組み、全教科の校内研究授業(次年度は学年別研究授業日を設定し、全ての教員が当該学年の研究授業を見学できるよう時間割等を調整。3年生は6月、2年生は9月、1年生は1月に実施)、日常的な教職員相互の授業見学、研究協議を行う。また、引き続き、進路指導部、教務部、学年団を中心に難関・中堅私立大学進学希望者に対する進学講習・夏季・冬季休業期間の学習会を実施する。</p> <p>学校全体で継続して授業改善に取り組むことで、教職員が意欲的に教材研究や相互の授業見学、研究協議に参加し、生徒を巻き込んで、家庭学習時間の増加、進学実績の上昇につなげていく。</p>